

演 題 名	「自然養鶏衛生対策飯田モデル」の 取り組み		
発 表 者 氏 名	小 澤 尚 長 田 宣 夫	所 属	飯 田 家 畜 保 健 衛 生 所
<p>2001年6月、県内での鶏ニューカッスル病 (ND) の発生を受け、管内21戸の養鶏農場に立ち入り、NDの抗体検査等を実施した。そのなかには、いわゆる自然養鶏農場が8戸あり、医薬品類の使用に慎重だったり、立入検査やワクチン接種にも否定的だった。8戸すべてがNDワクチンを未接種だったため、43羽のGM価は3.0倍だった。検査後の指導により、同年9月までに全8戸が初めてNDワクチンを接種した。2002年度は、「自然養鶏衛生対策飯田モデル」として、ND発生情報の随時周知、毎年度1回の立入検査の実施、ND以外の検査も実施、検査結果の農家への持参、窓口的農家の養成などの項目を重点に取り組んだ。同年11月、自然養鶏8戸に再度立ち入り、7戸の抗体検査を実施した。その結果、36羽のGM価は15.7倍で、うち5戸は、再びNDワクチンを接種あるいは計画したことなど、一定の成果が認められた。</p>			